

普及活動情勢報告（令和4年11月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

トルコギキョウ土壌病害対策 ～低濃度エタノール土壌還元処理の普及～



管内のトルコギキョウ栽培で問題になっている細菌などによる立枯病に対し、効果が高く環境への負荷が小さい土壌消毒方法として、低濃度エタノール土壌還元処理を推進しています。今年度は「みどりの食料システム戦略緊急対策事業」を活用して、芸西村の6戸10ほ場で処理し、収穫が始まった10月26日に各ほ場を巡回し、発病状況調査、処理に関する生産者との意見交換を行いました。

処理により立枯病の発生はおおむね減少していて、生産者は効果を実感しており、「多少経費がかかっても菌密度を下げるまで処理を続けたい」との声が聞かれました。

農業改良普及課では今後も土壌病害の低減のため、より効果が高く処理しやすい土壌消毒方法の普及にむけ支援をしていきます。

現地を見て！データを見て！光合成を最大化！ ～芸西ナス部会勉強会～



10月26日、JA高知県芸西ナス部会の勉強会が開催され、ナス生産者19人が参加しました。

はじめの現地検討会では、各ほ場でJAが耕種概要を説明した後、生産者らがナスの生育状況を見ながら栽培管理について意見交換しました。

続いての座学では、農業改良普及課から、IoTクラウド“SAWACHI”を利用してデータ収集し、分析した各農家のかん水事例を紹介しました。生産者からは、「光合成を最大化させることが、一番の効率化だと思い出させてくれた」といった感想が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も勉強会を通してデータに基づいたより良い営農指導を行い、生産者が「楽しく！楽に！儲かる！」農業を目指します。

人・農地プランから地域計画へ ～芸西村農業委員会勉強会～



10月31日、芸西村生涯学習館で農業委員16人を対象に地域計画作成に向けた勉強会を行いました。

農業改良普及課から、『人・農地プランから地域計画へ』のタイトルで、実質化を終えた管内市町村の状況や地域計画作成に向けて農業委員会に期待されている役割等について説明しました。

委員からは「地域計画を作成しないといけないということは良くわかった。かつての耕作放棄地解消事業のような使い勝手のよい事業はあるのか」といった声があり、今後地域計画を作成し、担い手に集積していく際の課題も出されました。

農業改良普及課は、今後、基盤整備課や関係機関と連携しながら、地域の主体的な計画作成に向けた支援をしていきます。

「ぼたなす」の拡大に向けて ～集落活動センター「ひなたぼっこ」役員会～



11月1日、室戸市日南・大平集落活動センター「ひなたぼっこ」の役員会が旧日南小学校で開催され、役員7人と関係機関が集まり、直近の活動報告や今後の計画について協議しました。

農業改良普及課室戸支所は、伝統野菜である「ぼたなす」を核とした農業振興を進めており、今回は、採種方法を指導した活動や薬剤散布を中心とした病虫害防除の実証ほの状況を報告しました。

「ひなたぼっこ」では今年から協働農園を立ち上げ「ぼたなす」とサトイモで計4aを栽培しています。来年は周辺の耕作放棄地約20aを集約して栽培面積を拡大し、一部をパイプハウスを使った雨よけ「ぼたなす」栽培に取り組むこととなりました。

室戸支所は、引き続き「ぼたなす」の生産拡大と品質改善に向けて支援します。

データを共有して切磋琢磨 ～穴内ナスデータ農業研究会～



11月10日、穴内ナスデータ農業研究会が勉強会を開催し、生産者15人が参加しました。

データ農業研究会では生産者同士でSAWACHIの環境データを共有しています。R5園芸年度初めての開催となった今回は、農業改良普及課から環境測定装置の特徴とデータを活用する際の留意点を指導しました。また、メンバー全員が目標収量を設定し、目標達成に向けたデータの活用方法を話し合いました。

農業改良普及課は、次の会までに、共有するデータを分析するなど、データ駆動の取り組みが前進するよう、引き続き支援します。

安芸市に農業しにきてみいや！！ ～農業体験ツアーin あき～



11月12日、農業をもっと知ってもらうことを目的とした農業体験ツアーを安芸市で1年ぶりに開催し、市内外から農業に関心のある7人の参加がありました。

農業法人の視察と指導農業士や新規就農者を交えた意見交換会の2部構成で実施し、法人視察では大規模経営の実態等を視察しました。また、意見交換会では、参加者から独立に向けた注意点、独立後のビジョン等多様な質問が出され、先輩農家から具体的なアドバイスもありました。

農業改良普及課は市、JAとともに、意見や質問が出やすいようにサポートし、参加者からは、「独立に向けた意識が高まった」や「漠然とした不安が解消できた」等の前向きな意見が聞かれました。

農業改良普及課は管内への就農希望者が前向きに就農を検討できるよう引き続き取り組んでいきます。

若手生産者の収量・意識向上へ ～安芸支部青年部会～



11月18日、安芸支部園芸研究会青年部会が、現地検討会と勉強会を開催し、生産者12人が参加しました。農業改良普及課からは、下位側枝の摘除、新規就農支援の取り組み、すすかび病の新たな防除体系や、冬期の収量向上技術について説明しました。

現地検討会では、参加者が園主に温湿度管理や生育診断について積極的に質問をしたり、生産者同士で話し合う姿が見られるなど、省力化や栽培管理についての意識が向上しました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、若手生産者の収量向上に向けて支援していきます。